

負の罰の例として妥当なのはどれか。

1. 勉強をしなかったら授業の単位を落としたので、次の試験からは勉強するようにした。
2. 食べ過ぎでおなかが痛くなったので、次からはあまり食べ過ぎないようにした。
3. いたずらをしたらいつももらっているおやつを抜かれたため、いたずらをしなくなった。
4. 授業中にうるさくしたので叱られたが、次からも静かにしなかった。
5. 遅刻をして怒られたため、次からは遅刻をしなくなった。

ハイダー（Heider, F.）による態度形成の理論に関する次の文中のア～ウに入るものがいずれも妥当なのはどれか。

ハイダーによる では、人が対象について持つ態度は、他者との関係によって左右されると考える。例えば、不均衡状態は、知覚者、他者、態度対象の三者のそれぞれの関係について、 の場合に生じるとし、このような状態のときに不快な緊張状態に陥り、それを解消しようとする力が生じるとした。この理論は と呼ばれる理論群の代表的なものである。

ア	イ	ウ
1. バランス理論	二つが正で一つが負	認知的評価理論
2. バランス理論	二つが正で一つが負	認知的斉合性理論
3. バランス理論	二つが負で一つが正	認知的評価理論
4. 認知的不協和理論	二つが正で一つが負	認知的評価理論
5. 認知的不協和理論	二つが負で一つが正	認知的斉合性理論